

今後の学校2学期制のあり方について（報告）

学校2学期制検討委員会

平成23年12月

1 学校2学期制検討委員会の設置の目的

市立の小学校、中学校における2学期制のあり方などについて協議し、検討するため、学校2学期制検討委員会を平成22年に設置する。平成23年の12月を目途に協議をし、その方向性を示す。

2 学校2学期制の導入に至る経緯

- ・本市の学校2学期制については、平成16、17年度に実施した6校の研究実践結果を踏まえ、平成18年度より全市小中学校で実施した。
- ・2学期制の導入を、「学校2学期制の実施をきっかけに学校教育の見直しと充実に向けた取り組みを行うことを通して、子どもたちの学校生活の充実と確かな学力の向上を目指す。これにより、学校の活性化や教職員の意識改革も図る」ことをねらいとして実施してきた。

3 検討委員会の構成メンバー

校長会代表（小・中）、教頭会代表（小・中）、教員（総括教諭4名）

児童及び生徒の保護者代表3名、教職員組合関係者2名、教育行政関係者の計17名
委員長；上野代 政範（前 市PTA連絡協議会会長）

4 学校2学期制検討委員会の開催状況

	日 時	会 議 名	主 な 内 容
平成 22 年	9月27日（月）	第1回学校2学期制検討委員会	今後の進め方について
	10月19日（火）	第1回学校2学期制調査部会	実態調査（アンケート）について
	11月12日（金）	第2回学校2学期制調査部会	実態調査（アンケート）について
	11月25日（木）	第3回学校2学期制調査部会	実態調査（アンケート）について
	12月 1日（水）	第2回学校2学期制検討委員会	実態調査（アンケート）について
平成 23 年	(1月中)		(全小中学校でアンケート実施)
	2月 9日（水）	第4回学校2学期制調査部会	実態調査の集計
	3月18日（金）	第3回学校2学期制検討委員会	実態調査の集計結果報告とその考察
	6月28日（火）	第4回学校2学期制検討委員会	今後の検討課題の洗い出し ・調査結果を尊重する ・各団体へ持ち帰り意見の集約
	7月20日（水）	第5回学校2学期制調査部会	総括教諭としての部会を開催
	8月30日（火）	第5回学校2学期制検討委員会	検討課題について ・各団体から ・検討委員会としての意見集約
	10月3日（月）	第6回学校2学期制調査部会	検討委員会の報告書の原案作成
	11月15日（火）	第6回学校2学期制検討委員会	検討委員会としての報告書をまとめる

	12月以降	教育委員会 定例会	今後の学校2学期制のあり方について、検討委員会の報告を受け、協議、決定
--	-------	-----------	-------------------------------------

5 審議経過

本市における学校2学期制は、平成22年度に、5年目を迎え、各学校の取り組みによって定着してきているが、学期制に関わる全国的な動きもあり、保護者の不安や2学期制のあり方についての疑問の声もある。また、教育委員会としても、2学期制のねらいの周知の徹底や取り組みの改善などについての課題を持っている。

そこで、本検討委員会は、現在行われている各校での学校2学期制の取り組みの状況から成果と課題を洗い出し、新学習指導要領実施を踏まえた今後の学校2学期制のあり方などについて検討する目的で、平成22年度に発足した。

第1回の検討委員会では、2学期制実施において、どのような課題が挙がってきているのかを確認する必要があるといった意見で一致した。そこで、児童生徒、教職員、対象となった児童生徒の全保護者を対象としたアンケートを実施し実態を把握することとした。平成22年度の検討委員会では、アンケート内容の吟味からアンケート実施、結果のまとめと考察までを行ってきた。

平成23年度に入り、アンケートの結果を尊重しつつ、そこから見える課題を整理してきた。そして、検討委員の所属するそれぞれの団体で協議された意見を検討委員会に持ち寄り、さらに協議を深めてきた。

協議では、おおよそ次のような意見が挙げられた。

- ① 子どもの成長を幼・保、小中学校の11年間のスパンで支援していく必要がある。
- ② 各学校は、2学期制に沿うように努力してきている。5年を経過した今、落ち着いて安定してきている。今後3学期制に戻していくと、円滑な学校運営に支障をきたすことが危惧される。
- ③ 学習指導要領改訂により授業時間数が増加しているが、2学期制を実施していることで、その対応が可能となっている。
- ④ アンケートの結果は尊重すべきである。
- ⑤ 授業時間数の確保ができています。
 - ・増加した授業時間数を、子ども一人ひとりの学力向上に向けて、ゆとりを持った教科指導や繰り返し学習といった学習の充実に充てている。
 - ・教師の子どもたちと関わる時間としてできるだけ有効的に活用していくよう努めている。
 - ・長期休業前の7月と12月に授業や行事、研究会などを設けることが可能となっている。
- ⑥ 7月までの学習や生活の様子などについて、夏休み前や夏休み中の面談などによって各家庭へ知らせている。それにより夏休みの学習の仕方や進路を考える機会となっている。
- ⑦ 現在、評価・評定、面談の方法や時期については、中学校3年生はどの中学校も同じように行っている。中学校1、2年生についても、成績に関する保護者への通知などの方法の違いはあるものの、全体的にはほぼ同じ時期に行っている。
- ⑧ 保護者からみると、長期休業前に評定である数値や通知表がないことに対して、一部、不安・不満があるが、学校としては、3学期制時より、保護者との連携を密に行っている。
- ⑨ 評価・評定の出し方や時期、回数などの成績に関する考え方について、保護者に対して、年度初めの時期を中心に説明を行うなど、学校として努力しているが、より十分な周知が必要である。

- ⑩ 現在の小学生は、3学期制を、また、中学生は、中学校での3学期制を経験していない実態がある。
- ⑪ 定期テストの時期や回数は、2学期制実施以前から、すでに学校行事などの精選を行う中で、中学校では、6月、9月、11月、2月の4回で実施しており、時期や回数の変更はない。逆に、週1～2時間程度の技能教科については、長いスパンで子どもの様子を見取ることができ、そこで蓄積したデータをもとに、よりの確な評価・評定をつけることが可能となっている。
- ⑫ 神奈川県西部の高等学校は、2学期制が主流であるという現状がある。

他に、一部次のような意見も挙げられた。

- ① 2学期制や3学期制にこだわらず、複数学期制も視野に入れるべきである。
- ② 成績に関しては、保護者にわかるような形で、各校特色を出し、独立性も必要ではないか。
- ③ 授業時間数確保という面で考えれば、学期制云々ではなく、夏休みの短縮や土曜日の授業の実施を考えていくことでもよいのではないだろうか。
- ④ 私立の良いところなども取り入れるなどして、小田原の教育を考えていくべきである。そこにどういいう学期がいいのかなども出てくると考える。

6 今後の学校2学期制のあり方について

本検討委員会では、学校2学期制に関するアンケートの結果の分析や、6回にわたる協議を踏まえ、今後の学校2学期制のあり方について、次の方向性を示すこととする。

今後も学校2学期制を継続することとし、今まで積み重ねてきた2学期制の良さを十分生かし、よりよい2学期制を実施していく。

各学校は、2学期制に沿うように努力してきており、「授業時間数の確保」「長期休業前の授業や面談などの行事、研究会の充実」「児童、生徒と向き合う時間の増加」「サマースクールの内容の充実」などといった成果を挙げている。今後も、そのよさを生かしつつ、よりよい2学期制を実施していくことが望まれる。

なお、よりよい2学期制を実施していくためには、次のようなことを意識していくことが必要であると考える。

- ・長期休業前のように授業が充実する時期が増えたことを意識して、教師は年間の指導計画や授業の内容、進め方などを構想していく。また、2学期制のよさを、児童生徒及び保護者に伝え、その効果が実感できるよう、保護者説明会や学校だより等により広報に努めていく。併せて、各校の成績の出し方などに関わる説明をより丁寧に扱っていく。
- ・長期休業期間の有効的活用を図るとともに、夏季の暑さ対策などの環境整備を推進していく。
- ・教師の多忙化を解消し、児童生徒とふれあう時間を確保していくよう、工夫改善していく。
- ・幼保・小中一体教育を推進し、子どもの成長を11年間のスパンを大切にしていく。

添付資料；実態調査アンケートの結果 中学校の評価評定及び面談の時期一覧